

2017年
1月号

カトリック笹丘教会 教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみ深く、御父のように」
小教区今年度のテーマ・・・「届けよう、神のいつくしみを共に」

キリストにおける一致を目指して



主任司祭 遠山満

皆さん、明けましておめでとうございます。昨年中は、いろいろとお世話になりました。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年12月の教会ニュースの中で、私は、SMAPの『世界に一つだけの花』の歌を取り上げました。この歌の中で言われているように、私たちが一人ひとり、世界に一つだけの花であることを自覚することは大切なことだと思います。しかし、それだけでは不十分です。何故なら、私たちが自分は「オンリーワン」であることだけを意識して生活するならば、私たちのこの世界は、オンリーワンが乱立している無秩序な世界、只の鳥合の衆になっていくことでしょう。それゆえ、私たちの世界には、何としても世界を導くリーダーが必要なのです。

ところで、私たちはこの一月、例年の通り、キリスト教一致祈禱週間を迎えます。キリスト教一致運動は、第二バチカン公会議の実りとして生まれました。分かたれた兄弟たちが語る正当な主張に耳を傾けて、相手から学ぼうとすることが、この運動の根幹にあります。この運動の結果として日本で生まれたものが、新共同訳聖書です。公会議以前、カトリックは儀式を重視するキリスト教、プロテスタントは聖書を重視するキリスト教と考えられていました。しかし、公会議後、聖書を重視するプロテスタントの兄弟たちの姿勢に学び、聖書を大切にし、加えて、分かたれた兄弟たちと対話しながら、諸先輩たちが歩んでこられた、その実りが新共同訳聖書です。

私たちの日常生活の中でも、様々な分裂を体験することがあるかと思えます。そのような時、何よりも冷静になる恵みを願いましょう。何故なら感情的になっていけば、相手の正当な主張も耳に入らなくなってしまうからです。冷静になって、相手の正当な主張に心を開いて受け入れていくようにすれば、相手との歩み寄りができるようになり、相手との一致が実現していくことでしょう。

私たちは、一人一人、オンリーワンですが、キリストにおける一致を目指してまいりましょう。イエス様は、最後の晩餐の時、仰いました。「皆が一つになりますように」。

お祝い行事報告



七五三

2016.11.13

神様とともに歩んで行きましょう！



小さなお友だちが勇気を持って前に出ました
神父様から祝福を受けました



聖水を受けました 神妙な表情でした



神父様から御メダイを掛けていただきました

成人式

2017.1. 8

新成人祝福のミサ

2017年新成人の皆さん、
おめでとうございます！！

笹丘教会では12人の新成人のうち、4人参加いただきました。祝福を受けた新成人の皆さんに信者会から笹丘教会聖堂の十字架が中に彫られた、ガラスのペーパーウエイト（文鎮）がプレゼントされました。




「一言挨拶を」と急に言われても立派に挨拶されました




祝福のあとで記念品が手渡されました



ホールで新成人の兄弟も一緒に団楽



信仰のルーツコーナー




私が洗礼を受けたのは高校一年生のときです。私は幼稚園からカトリックの学校に通っていました。中学に入学してから学校が少し窮屈に感じ、他の世界も見てみたいと思うようになり、三年生で公立の中学に転校しました。それまで学校での祈りの時間や宗教の授業に真面目に取り組んでいたわけではなかったけれど、転校してしばらくして、このままキリスト教と何の接点も持たずに過ごしていくのかと思うと少し寂しいような、それではいけないような気持ちになりました。「私もちょっと勉強してみようかなあ」と軽く言ったのを母（当時はプロテスタントの信者）がとても喜び、すぐに笹丘教会員の叔母のついでイエズス会の塩谷恵策神父様に会わせていただくことになりました。軽い気持ちで言ったのに、あまりのスピード感に後に引けない状態になってしまい、内心しまったなと思いましたが、塩谷神父様にお会いしてみると穏やかで優しく、豊かな知識とユーモアに溢れる本当に素敵な神父様で、毎週とても楽しく学ぶことができました。

勉強を進めていくうちに、幼い頃から親しんできたイエス様の存在を私は疑わないし、この先も私の主が他のものにはならないだろうと確信し、洗礼を受けることを決めました。約一年間洗礼に向けて勉強し、同時に笹丘教会のミサにも行くようになり、高校一年生の誕生日にイエズス会修道院で洗礼を受けました。笹丘教会の方々も来てくださり、母や代母をしてくれた叔母をはじめ、皆が自分の受洗をととても喜んでくれ、感動で涙が出ました。今でも他の方の洗礼式を見ると、いつもこのときの決心と感謝を思い出します。普段思い出しもせず、行動もできていないので色々と反省もします。

振り返れば、中学三年生の一年間以外は結局、高校・大学もキリスト教の学校に縁があったこと、塩谷神父様が東京に異動になった一年後に私も東京の大学に行くことになり勉強が継続できたことなど、意志の弱い私が神様からあまりに遠いところに流れていかないように、いつも神様のお導きがあったのだなと感じています。結婚した夫は信者ではありませんが、私の信仰を尊重してくれ、昨年生まれた息子の幼児洗礼も何も反対せず了承してくれました。今後は夫や息子にとって一番身近な信者が私であるという責任を自覚して、自身の信仰とともに息子（できれば夫も）の信仰を育てていくことが私の今後の人生の大きな目標です。

（原田仁奈）





編集後記

あけましておめでとうございます。今年も教会ニュースをよろしくお願ひします。

さて、人生には様々な出会いがあります。中にはその後の人生に多大な影響を与える出会いもあります。

先日の新成人祝福式で信徒会長が星野富弘氏の「あの人のようになりたくて、あの人を追いかけていたら、あの人の中にはキリストがいた。」の言葉を紹介しながら自身の出会いについて語っていましたが、今度列福式を迎える高山右近も、この「あの人」に出会い、人生を決定的に変えられたひとりではないでしょうか。追いかけて、追いかけて、そしてキリストと出会い、あのよう生き、神に祝福される福者となります。

列副式には行けませんが、あらためて右近の生涯を学ぼうと思います。

新成人をはじめ若者、そして子供たちが「追いかけたい人」に出会い、その人を通してキリストとの出会いを体験し、信仰の喜びのうちに人生を歩むことを祈りながら。

(Y. K)